

けると、働きたくなくなり、働くのを辞めてしまつわけです。

### 貧困層に30歳成人説は当てはまらない

中卒や高校を中退した、いわゆる低学歴層の人は、それだけでも就職に不利になりますが、残念ながら親と上手くいかないというパターンが多かったり、片親であったりというパターンが多い。統計的に出ているのですが、そうすると親に依存できない環境となり、自分で働き、生活しなくてはなりません。

そうするとどうなるかと言えば、一人で生活することに寂しさを感じたり、自身の家庭環境が恵まれていないがために、幸せな家庭を欲するようになる。その流れのまま、10代で結婚してしまい、計画性のないまま子供ができてしまう。お金がないのに、結婚し子供を産んでしまうので、経済的に苦しくなってしまう。

また、片親などの事情で貧しくなつてしまつた世帯では、教育費をか

けることができないため、その子供は低学歴となつてしまい、結果、高収入の職には就きづらい。

では、今挙げた世帯の子供達のその後の生活はどうなつて行くのか。貧しい生活のため、子供に教育費をかけられず、子供は低学歴者となる。そのため早い段階から働き、また親と同じように愛情を求めて早く結婚し、子供を持ち、苦しい生活を始めてしまう。

経済的格差というのはそういうもので、子供に受け継がれて行きます。ここをどうにかしないといけないと考えています。やはり大学に行つて勉強をしたり、資格を取つた方がよいかなと、そしてある程度稼げるようになってから子供を作るようになるれば、その流れは断ち切ることができます。

一般的な家庭ではどうか。日本は子供を産めば産むほどお金がかかるので、子供は一人だけとなる傾向がある。今は不景気な時代ですから、共働き世帯となり、子供は鍵っ子となることが多いです。

そしてわずかなゲームを買い与え、家族や他の人とのコミュニケーションもとらない日々を過ごし、現実とゲームの間を行ったり来たりしながら生活している。多分、こつこつた家庭の子達が、ニートやフリーターになつて行くのかもかもしれません。

総括すると、30歳成人説が当てはまるのは、裕福層ということですが、苦しい人達はそうじゃないと思います。裕福じゃなくても、一般的な生活ができる人達。基本的にはそちらの方が大多数です。ある程度生活ができて、大学に行こうと思えば行ける人達。親への依存度が高い人達。

そういう人達が30歳成人説に当てはまると思います。片親であったり貧困層であつたら、その説は当てはまらないと思います。だつて生きて行かないといけないから。四の五の言わず働かないといけないですから。その代わり先程お話ししたような、経済格差の問題が私には見えていて、だからこそ親へのアプローチが重要であると考えています。